

## 25 章 総合問題 25

### 問題

#### 【1】

#### 解答例

オーラル・ヒストリーは、文書史料の幅を広げ労働者階級や文化的少数者の経験や視点を加えることで、個人的意味合いを持つ個人生活の記録を可能とした。その結果、インタビューを受ける人がインタビューの過程で史料であると同時に、歴史家となった。[116字]

#### 別解

オーラル・ヒストリーは、史料の幅を拡げ、労働者階級や文化的少数者の経験や視点を加え、個人生活の記録を可能とした。記録の作成には技術や他の学術分野の知識を必要とし、歴史家と史料との人間的つながりを基礎として、単なる歴史記録以上の価値を持つ。

[120字]

#### 解説

##### 【第1段落】

第1文：20世紀後半において、オーラル・ヒストリーが歴史の記録に与えた影響《主題設定》。

第2文：文書史料の幅の拡張と歴史の裏側に隠された人々の経験と視点の追加。

第3文：第2文の具体化。

第4文：第2文の具体化。

第5文：他の文書史料では見過ごされてきた、歴史経験の特定の〔個人的な〕側面を記録。

##### 【第2段落】

第1文：オーラル・ヒストリーの、歴史の記録に対する挑戦。

第2文：インタビューの記録のための技術進歩の必要性和他の学術分野との関係。

第3文：オーラル・ヒストリーは歴史家とその史料との活発な人間的つながりに基づく。

→歴史記録の方法の変容

第4文：インタビューを受ける人（語り手）は史料であるのと同時に歴史家である。

第5文：オーラル・ヒストリーは単なる歴史の記録構築にとどまらない。

第6文：個人と文化的少数者の歴史的地位が高まる《第5文の言い換え》

#### 全訳

20世紀の後半期において、オーラル・ヒストリー（口述歴史）は、多くの国々で実践されてきた現代の歴史の記録に大きな影響を与えてきた。社会的及び政治的エリート層に属する者に対するインタビューは、既存の文書史料の幅を広げてきたが、オーラル・ヒストリーの最も顕著な貢献は、オーラル・ヒストリーがなければ「歴史の裏側に隠されて」しまっていたかもしれない人々の経験や視点を、史料の中に加えたことである。このような人々は、過去においては社会評論家によって、あるいは公文書の中に記録されていたかもしれないが、そういう人々自身の声が残されることは、本当にまれであって、通常は私文書や、自伝風の書き物の形で残されたにすぎなかった。オーラル・ヒストリーのためのインタビューを通し

て、とりわけ、労働者階級の人々、文化的少数者に属する人々は、自分たちの体験を史料に加え、自分自身の歴史解釈を提示してきた。さらに、インタビューによって、個人的な付き合いや、家事、家庭生活といった、他の文書史料から除かれがちな歴史経験の特定の〔個々人の〕側面が記録されることになり、それらは生活体験の持つ主観的あるいは個人的意味と共鳴し合ってきたのである。

オーラル・ヒストリーは他の点でも、歴史の記録に刺激を与えてきた。インタビューを行う歴史家は、インタビューの記録を作成するのに必要な技術を高め、記憶に基づいて語られることをよりよく理解するため、社会学、人類学、心理学、そして言語学などを含む、他のさまざまな学術分野から知識を得なければならなかった。最も重要なことは、オーラル・ヒストリーは、歴史家と史料の間に生じる活発な人間的なつながりに基づいていることであり、このことは、いくつかの点で歴史の記録方法を変容させ得る。語り手は、ただ過去を思い出すだけでなく、その過去について自分なりの解釈を主張するのである。したがって、語り手が参加するオーラル・ヒストリーのプロジェクトでは、インタビューを受ける人は史料であると同時に歴史家にもなりうるのである。さらに、それを行う者にとっては、ただ単に歴史を記録することにとどまらない。プロジェクトの中には、過去を思い出して再解釈する過程を通して、個々人あるいは社会集団の地位向上をはかることが主要な目的となったものもあるのだ。

**注**

- ℓ. 1 ◇ has had a significant impact upon contemporary history as practiced in many countries  
○ ここの history は「歴史記録」の意味。したがって contemporary history は「現代史の記録」の意味となる。  
○ as (contemporary history has been) practiced in many countries  
○ as : 形容詞節を導き、前の contemporary history を修飾している。
- ℓ. 5 ◇ groups of people who might otherwise have been 'hidden from history'  
○ who might otherwise have been 'hidden from history' は、関係詞節中が仮定法過去完了の文。  
○ otherwise : if 節に書き換えをした場合、if it had not been for oral history のように if 節内が仮定法過去完了となる。
- ℓ. 10 ◇ among others = used to say that you are only mentioning one or two people or things out of a much larger group
- ℓ. 13 ◇ have resonated with ~ 「～に反響する」
- ℓ. 15 ◇ challenge ≡ stimulate; have an influence upon  
◇ the historical enterprise ≡ contemporary history as practiced in many countries
- ℓ. 19 ◇ their sources = the narrator
- ℓ. 24 ◇ empowerment < empower = to give someone more control over their own life or situation  
cf. *empowerment* of women (女性の地位向上)

## 【2】

### 解答

- (1) ① (2) ① (3) ① (4) ② (5) ② (6) ②

### 解説

東大に特徴的な正誤判定問題である。難易度が高いというわけではないが、意外と苦手としている受験生が多い。対処法としては、まず通読して文意を考えること。その時、文の構造をチェックしておく必要がある。ついで、文全体の構造を踏まえた上で、文法的誤りに加え、語法的・意味的にも誤りがなければチェックしていく。いきなり細かい部分に目をやると迷いが発生し、時間ばかりかかるので注意したい。

- (1) 「英語はその歴史を通じてずっと、それが接触してきた他の言語から単語を比較的簡単に受け入れてきた。」文全体は The English language (S) has accepted (V) words (O) from ~ (英語は~から単語を受け入れてきた) という第3文型。まずはこの構造をとらえること。述語動詞 has accepted の間に throughout its history (その歴史を通して) という副詞句が挿入され、さらに、accepted と目的語 words の間に with comparative ease (比較的容易に) という副詞句が挿入されている。for which 以下は languages を先行詞とする関係詞節になりそうだが、be in contact with ~ で「~と接触する」となるので、①の関係代名詞 which の前の for は *with* に変える必要がある。
- (2) 「各国が工場を建て続け、天然資源を開発するにつれて、大気汚染や水質汚濁の問題は増加するだろう。」multiply を「(物の数が) どんどん増える」という自動詞で用いる場合は、その主語は複数形になる。よって①の the problem は、the problems と複数形にする必要がある。
- (3) 「1つの地域社会に数百人以上の人々が住んでいる時、一人一人が他の人全員を個人的に知ることは不可能である。」the other で「(2つのうちで) もう一方〔他方〕の」という意味である。この文では、文脈から「数百人以上の人々の中で自分以外の全員」という意味になるので、(the) others ((3つ以上のうちで) その他のもの〔人々〕; 残りのもの〔人々〕全部) とする必要がある。したがって、①は all the others とするのが正しい。
- (4) 「新聞の読み方について、もっと訓練を受けていればよかったのと思う。」I wish + 仮定法過去完了' で過去に実現しなかった願望を表している。②に the way how とあるが、the way と関係副詞 how は同時には使えない。どちらか一方を用いるか the way *in which* とする必要がある。
- (5) 「今まで言われてきたことだが、イングランド以外のどの国においても、わずか1日のうちに4つの季節を経験することはできない。」In no ... England という否定を含む副詞句が文頭に出ている。その後ろには it has been said とあるが、これは挿入節で、In no country ... can one experience ~ が基本である。ここでは、否定を含む表現が文頭に出たために倒置が起こっている。主語は一般人称の one だが、動詞は can に続くことになるので、experience というように②の experiences を原形にして用いなければならない。

- (6) 「異なる文化を持った人々の間で起こる誤解のよくある原因は、身振りの解釈の仕方である。」この文の主語は、④の A common cause であるから、述語に当たる⑧は is が正しい。the way in which は (4) でも述べたように the way か how に置き換えることもできる。culture は、不可算名詞で用いられることも多いが、具体的な文化を指す場合は、可算名詞となる。

### 【3】

#### 解答

- (1) しかし、お金がなく、作品は注目されず、しばしば食事を抜き、ウェスト・サイドにある狭いアトリエは冬には寒くもあった、といったことは、そうした飢えのうちでも最も取るに足らないものであった。
- (2) 「全訳」の下線部⑥参照。
- (3) 自分には芸術家の才能を開花できないこと。[20 字]

#### 解説

- (3) are you for me, or against me? の部分は、神によって創造された自然を再創造する才能を有することが「神に従うこと」であり、そのような才能を欠くことが「神に従わないこと」である。したがって、この問いは「自分には神に授けられた才能があるのかないのか」という自問であり、この自問に確信を持って「ある」と自答できる者はいわば神の庇護を受け、一流画家としての名声を確立するが、一方そのように自答できない者は市井の職業画家として食うに足るだけの、あるいはそれにすら満たない収入を得て生涯を終えることになる。そう考えれば、

what he cannot say

は、その問いに何とも答えられないということなので、

「自分には神が与えてくれた芸術家の才能を開花させることができないこと」

を認めることを意味する。ここでは、20 字以内という条件があるので、「自分には芸術家の才能を開花できないこと。」となる。

#### 全訳

食べ物以上のものへの飢えというものがあって、それが私が抱えていた飢えであった。私にはお金がなく、作品は注目されず、しばしば食事を抜き、ウェスト・サイドにある狭いアトリエは冬には寒くもあった。しかしそれは、そうした飢えのうちでも最も取るに足らないものであった。

私が苦勞について語るとき、それは寒さや空腹のことを言っているのではない。冬やお金がないことのどれよりも苦しい、また別の種類の苦悩が芸術家にはある。それはむしろ精神の冬と言ってもよいようなものであり、そこでは彼の才能が持つ生命、つまり彼の作品を流れる血液が、死の季節の中に —— もしかすると永遠に —— 捕らえられて凍りつき、動きを止められてしまったように思われる。そして、春がいつか再び巡って来てそれを解き放ってくれるかどうかは誰にもわからない。

⑥その苦悩とは、自分の作品が売れないということだけでなく —— そんなことは、これまでにも一流の画家、さらには偉大な画家にさえも起こっていることである —— 自分の中



に封じ込まれているものに自分でたどり着くことができないように思えることであった。人物画であれ、風景画であれ、静物画であれ、何を描こうとも、それはすべて自分の意図するもの、つまり、この世で自分が本当に言いたいこと、すなわち、自分の絵を通じて何とかして人に伝えたいことであると、自分の本名がエベン・アダムズであることと同じくらい確実にわかっていることとは違っているように思えた。

その期間がどのようなものであったかを人に伝えることはできない。なぜならその一番苦しい部分は、極めて表現し難い不安感であったからである。大半の画家がその種のことを経験するのであろう。遅かれ早かれ、彼らはただ生活する——絵を描き、絵で食べていくのに十分な、あるいは十分でないまでも収入を得る——だけではもはや足りなくなる。遅かれ早かれ、神は問いを發する。お前は私に従うのか、それとも従わないのかと。そして問われた画家は何らかの答えを用意していなければならない。さもなければ、彼は自分には言えないことのために胸が裂ける思いをしなければならない。

**注** .....

- ℓ. 1 ◇ the hunger I fed on 「私が糧としていた空腹」  
○ feed on ~ = have (as food) 「~を常食とする；~を糧に生きる」
- ℓ. 3 ◇ the West Side : ニューヨーク市のマンハッタン区の西部地区。
- ℓ. 5 ◇ which : 先行詞は another kind of suffering.  
◇ anything (that) a winter, or poverty, can do  
○ poverty < poor
- ℓ. 6 ◇ which : 先行詞は a winter of the mind.  
◇ living = (of water) flowing  
◇ sap 「血氣；生氣」  
○ 原義は「樹液」 (= liquid in a plant)。
- ℓ. 7 ◇ who knows? = Nobody knows.  
○ 修辭疑問
- ℓ. 8 ◇ set A free = give A freedom; free A
- ℓ. 10 ◇ one cannot seem to ... = it seems that one cannot ...  
◇ get through, myself, to the things that were bottled up inside me  
○ get through to = reach  
○ bottle up = put (something) in bottles  
《自分の内に秘められた才能を自分で開花させるということ。》
- ℓ. 11 ◇ figure = representation of a person (in drawing) 「人物画」  
◇ still-life = representation of non-living objects 「静物画」  
○ still = not moving
- ℓ. 12 ◇ what I meant — from what I knew ...  
○ from what I knew ... は from what I meant の同格語句。  
○ what I knew was the thing (that) I really wanted to say ~ : 連鎖關係詞節。  
◇ as surely as my name was Eben Adams  
○ 挿入句。knew を修飾。

- ℓ. 13 ◇ to tell people about  
 ○ to say ～の同格語句。the thing I really wanted to tell ～。  
 ○ about の目的語は the thing。  
 ◇ somehow = in some way; by some means 「何とかして；ある方法で」
- ℓ. 15 ◇ an anxiety (that) it is very hard to describe  
 ○ that は describe の目的語。
- ℓ. 18 ◇ to eat : 2つの enough を修飾。  
 ◇ His < He = God
- ℓ. 19 ◇ or (the artist must) feel  
 < or = if not; otherwise

#### 【4】

##### 解答

- (1) 「全訳」の下線部参照。
- (2) コンピュータが強力で小型化し遍在する結果、視界から消え去るというアイディア。  
 [38字]
- (3) 強力だが見えないコンピュータが周囲に隠されているという未来図は、非現実的で費用がかかるように思えること。[52字]
- (4) ④ c      ⑤ b
- (5) ユビキタスコンピューティングが十分に発達して社会に溶け込んでいるのを目にすること。

##### 解説

- (1) Machines that fit the human environment <instead of forcing humans to enter theirs>  
 S ↑

will make using a computer as refreshing as taking a walk ~  
 V                      O                      C

- 文の構造がわかりにくくなっているが、S make O C (OをCにする) の第5文型に相当する。目的語部分は using a computer と taking a walk in the woods との比較になっている。補語の refreshing は「すがすがしい；元気づける」の意。
- 設問では所有代名詞 theirs の具体的内容を明らかにすることが求められている。所有という言葉がついていても、代名詞であるからには名詞の代わりをしているわけで、その名詞は何であるかを前後から探し出せばよい。ここで主部を訳してみると「人間を theirs へ入るように強いるのではなく、人間の環境にぴったり合う機械」となるが、instead of ～ (～の代わりに；～しないで) の意味から考えて、この部分の前半と後半の内容が対照的になるはずである。人間にとって「使いやすい」機械と「使いやすくない」機械の対照になっていると推測できるので、theirs は their (= machines') environment を指しており、「人間を機械の環境に入るように強いる」となることがわかる。

- (2) 下線部を含む文は「ワイザーはこのアイデアを『ユビキタスコンピューティング』と命名している」の意味。下線部は段落の最終文にあるので、指示するものは前にあると判断でき、前文の Computers, ~ from view. を見てみると、「ユビキタスコンピューティング」と呼ぶにふさわしい内容を表しているので、この部分をまとめればよい。ただし、instead of ~ movies の部分は挿入句であり、解答には含めなくてよい。Computers will become so small and ubiquitous that they will be invisible, everywhere and nowhere, so powerful that they will disappear from view (コンピュータは非常に小型になって遍在し、あらゆる所にあるのだがどこにも目につかなくなってしまう、とても強力になって視界から消え去ってしまうであろう) の内容をまとめればよい。40 字という字数制限があるので、キーワードの「コンピュータ」「小型化」「遍在化」「強力化」「目につかない〔視界から消え去る〕」を入れてまとめることになる。
- (3) 下線部を含む文は「強力だが目に見えないコンピュータが我々を取り巻く環境の中に隠されているというこの未来図は、非現実的でとても費用がかかるように思われるけれど、それは思い違いである。」という意味である。代名詞 that は先行する文（または一部）を指すので、ここでも前の部分を見てみると、this vision … expensive がまず考えられる。下線部がこれを指していると考え、「遍在するコンピュータ」という未来図が実現可能であることを主張する、この段落の内容とも合致する。解答としてはこの部分を要約すればよい。

this vision of powerful but invisible computers (hidden in our environment)

S ——— 同格 ———

sounds impractical and very expensive

V

C

この中の this, our, very といった修飾語を削れば字数内に落ち着くだろう。

- (4) ④ think nothing of ~ は「~を苦にしない；何とも思わない」という意味。「気軽に~する」と言い換えることもできよう。正解は c の「我々は食料雑貨店に行くのはとても気軽だと考えるだろう」。その他の選択肢の意味は、a「食料雑貨店に行くのは非常に気が進まないだろう」、b「食料雑貨店へ行くこと以外何も考えないだろう」、d「食料雑貨店へ行くことなど不可能だと思うだろう」のようになる。
- ⑤ catch ~'s fancy は「~の気に入る」という意味。正解は b である。その他の選択肢の意味は a「パソコンは初めて人々に見せられた」、c「人々はパソコンの存在に気がつき始めた」、d「政府は人々の注意をパソコンに向けた」。

Ex. The painting *caught his fancy* (= He liked the painting), so he bought it.

(彼はその絵が気に入った。それでその絵を買った。)

- (5) be [come] of age は「成年である〔に達する〕」という意味から、ここで言う「成年」とは「成熟」を表すと解し、「十分な発達段階へ達する」の意味があることがわかる。1988 年に「遍在するコンピュータ」というアイデアが着想されたので、2010 年なら成人（普通 18 ~ 21 歳）に達していることも示唆している。コンピュータ産業では、あるアイデアの着想から商品になって出回るまで、およそ 15 年かかるという記述

もこの段落の最初にある。着想から 20 年以上経過した 2010 年頃にはもう十分に発達していると予想している。

#### 全訳

マイクロチップは非常に強力かつ安価になってきているので、ワイザーや彼と同じコンピュータ科学者たちは、マイクロチップが何千となく我々の生活構造の中へと静かに姿を隠して、壁、家具、電気器具、家、車、そして宝石類にまで組み込まれるだろうと考えている。何の変哲もないネクタイが、ある日、現在のスーパーコンピュータよりも大きな計算能力を持つかもしれない。すでに、こうした装置の原型は作られていて、それは我々が部屋から部屋、ビルからビルへと移動するのを音もなく追跡し、姿を見せずに我々の命令をとぎれることなく実行する。

コンピュータは、今日あれこれと多くの作業を人に要求し酷使するものであってもおかしくないが、それとはまったく異なり、生活面で我々を本当に解放してくれる力になるだろう。ワイザーが述べているように「機械的環境に人間を無理やり引き込むのではなく、人間の生活環境にぴったり合う機械のおかげで、コンピュータを使うことが森の中を散策するのと同じくらいすがすがしいものとなるだろう。」こうした目に見えない装置はお互いに通信し合い、自動的にインターネットへ接続する。次第に知能を持ち始め、言われる前に我々の意図をくむことができるようになり、インターネットにアクセスすることで地球の英知を我々にもたらししてくれるだろう。

この未来図が全体として意味することには愕然とする。これに比べると、パソコンは単なる計算器にすぎない。

ゼロックス PARC のような所で働く人々のアイデアは非常に大きな関心を呼んでいる。というのも、数十億ドル規模に達する産業の運命は将来こうした工学技術の達人たちの訳のわからない落書きやくだらない白日夢にかかっているのかもしれないからだ。アメリカの一流のコンピュータ専門家間ではある意見の一致が芽生えつつある。コンピュータは SF 映画で主演した強欲な怪物になるのではなく、非常に小型になって遍在し、あらゆる所にあるのだがどこにも目につかなくなってしまうだろう。とても強力になって視界から消え去ってしまうであろう。ワイザーはこのアイデアを「ユビキタスコンピューティング」と命名している。

不可視性へと突き進むこの動きはおそらく人間の行動の普遍的な法則であろう。ワイザーは述べている。「見えなくなることは、科学技術ではなく人間心理から生じる根本的な結果である。人々が何かあることを十二分に修得すると常に、そのことを意識しなくなる。」と。

もしそのような考え方がこじつけのように思えるのであれば、電気と電動モーターの発展のことを考えてみてほしい。19 世紀において、電気と電動モーターはとても高価なものだったので、すべての工場は、白熱電球をつけたり、大きいモーターを置いたりする場所が確保できるように設計されていた。労働者、機械の部品、テーブルなどの配置はすべて電気とモーターの必要な場所を取り囲むように設計された。

しかしながら、今日では、電気はどこにでもある。壁の中に隠されているし、小さなバッテリーの中に蓄えられている。モーターはとても小さくなり、広く用いられるようになっていたので、多数のモーターが車の構造の中に隠され、窓、ミラー、ラジオのダイヤル、テー

プデッキそれにアンテナを動かしている。けれども運転している間、我々は22個ものモーターと25個ものソレノイドに囲まれていることに、まったく幸せなことに気づかないでいる。

強力だが目に見えないコンピュータが我々を取り巻く環境の中に隠されているというこの未来図は非現実的でとても費用がかかるように思われるが、それは思い違いである。マイクロチップの価格が下がることで、コンピュータの価格は容赦なく押し下げられている。今後コンピュータは非常に安くなり、ワイザーが主張するには「食料雑貨店へ行って、今日乾電池を購入するのと同じように、コンピュータを6パック購入することを我々は何とも思わなくなるだろう」。

コンピュータ産業では、アイデアを思いついてからそれが商品として市場に出回るまで、平均してざっと15年かかる。パソコン1号機を例にとると、それは1972年にゼロックスPARCで組み立てられたが、ようやく大衆に気に入られたのは1980年代後半になってからだった。ユビキタスコンピューティングが構想されたのは1988年だった。こうしたアイデアがはっきりとした形で我々の生活に影響を及ぼすのを目にし始めるのに2003年までかかるかもしれない。そしてその後何年もたたないと「臨界質量」に達して商業界を燃え上がらせないかもしれない。しかし2010年までには遍在するコンピュータが十分な発達を遂げたのを見ることができると期待できる。2020年までには遍在するコンピュータが我々の生活を支配しているだろう。

注

ℓ. 3 ◇ fabric 「(建物；組織の) 構造；骨組み」

◇ incorporate ~ into ... 「~を…へ組み入れる」

ℓ. 5 ◇ prototypes of these devices have been built which silently follow ~

↑ \_\_\_\_\_ 《主格の関係代名詞》

ℓ. 6 ◇ seamlessly 「継ぎ目なく；とぎれることなく」

ℓ. 8 ◇ far from being the demanding taskmaster (that) it can be today :

↑ \_\_\_\_\_ 《主格の関係代名詞の省略》

○ far from ...*ing* 「…するどころか」

○ taskmaster 「厳しく仕事を課す人；厳しい監督」

○ it = the computer.

○ このように主格の関係代名詞が be 動詞の補語になる場合、制限用法に限って省略可能である。

ℓ. 9 ◇ liberate ~ 「~を解放する」

ℓ. 12 ◇ tap in 「接続する」

ℓ. 17 ◇ ride on ~ 「~にかかっている；~次第である」

ℓ. 18 ◇ wizard 「達人；名人；魔法使い」

ℓ. 24 ◇ Disappearance is a fundamental consequence *not* of technology *but* of human psychology.

○ not A but B 「A でなくて B」

○ a consequence of ~ 「~の結果」

ℓ. 26 ◇ far-fetched 「信じがたい；こじつけの」

- ℓ. 28 ◇ lightbulb 「白熱電球」  
 ◇ bulky 「大きい；かさばる」  
 ℓ. 32 ◇ scores of ～ 「多数の～」  
 ℓ. 34 ◇ blissfully 「まったく幸せなことに」  
 ℓ. 42 ◇ conception 「着想；考案」 cf. *conceive* ～ 「～を思いつく」  
 ℓ. 45 ◇ appreciable 「評価可能な；容易に感知できる；かなり大きい」  
 ℓ. 46 ◇ ignite ～ 「～を奮起させる；～に火をつける」

## 【5】

### 解答

「全訳」の下線部①、②参照。

### 全訳

夏休みの後半を兄と私は必ずシャーンドン・アビーのクララおばさんと共に過ごした。おばさんは変わった女性であった。私たちにとって、また彼女を知る誰にとっても、涙が溢れて、小さくて石のような瞳を見えなくさせているのを想像するのは、その同じ目が怒りに燃えているのを想像するのと同じくらい難しかったであろう。

常に彼女の頭と月日を占めていたのは3つの趣味であった —— 狩猟，射撃，釣り。そしてこの3つのうちでも，狩猟と射撃とがクララおばさんの身も心も虜にしていた。①その上に，この狩猟と射撃という趣味のために，私と兄はいろんなことを禁止されたり強要されたりした。②それどころか，自分にある程度娯楽を連想させない活動のすべてを叔母は即座に嫌悪し，その嫌悪の甚しさは娯楽を連想させる活動を好み，賞賛した時と同じくらいであった。

### 注

- ℓ. 1 ◇ the latter half : spent の目的語。  
 ℓ. 2 ◇ curious = strange; odd  
 ℓ. 3 ◇ conceive of = think of; imagine  
 ◇ stone = hard solid mineral substance that is not metallic 「石」  
 ◇ would : 仮定法。主語 (= to conceive ～) が条件。  
 ℓ. 4 ◇ aflame = burning; very excited < flame  
 ℓ. 5 ◇ pursuit = activity pursued; a leisure or sporting activity  
 ℓ. 7 ◇ we boys = my brother and I  
 ○ 一般論を言っていない点に注意。  
 ○ 「我々少年たち」は誤訳。  
 ◇ forbid = order not; inhibit; prohibit; ban  
 ℓ. 8 ◇ in fact  
 ① 「実際は」〔文修飾語〕  
 cf. He is the president of the company *in fact*, but not in name.  
 (彼は事実上はその会社の社長だが，名目上はそうではない。)  
 ② 「ところが実際は」〔つなぎ言葉〕



○直前の発言と異なる意思やそれを否定する物事を述べる。

cf. Everyone thinks he is a nice person. but *in fact* I don't trust him.

(彼はいい人だと思われているけれど、実は私は信用していない。)

③ 「いやむしろ、それどころか」〔つなぎ言葉〕

cf. He wasn't very helpful. *In fact*, all this resulted from his carelessness.

(彼は決して助けにならなかった。それどころかこれらはみな彼の不注意から起こったのだった。)

◇ what activity ... to our aunt

○ detest の目的語。

○ what は関係形容詞。

◇ in some manner < in a manner = to a certain extent

◇ suggest A to B 「A を B に連想させる；思い起こさせる」 **盲点**

cf. This picture *suggests* a variety of things to me.

= This picture reminds me a diversity of things.

(この絵は私にさまざまなことを連想させてくれる。)

ℓ. 9 ◇ detest = dislike very much; hate

◇ those = the activities

◇ did = (in some manner) suggested sport to our aunt

【6】

**解答**

(1) d (2) c (3) d (4) b (5) b

(6) c (7) b (8) a (9) d (10) c

**Script**

**CD 2 10 ~ 12**

M : As part of a series of interviews examining aspects of Asian American culture, we are happy to have as our guest today Dr. Kristina Chew of the University of St. Thomas. Dr. Chew specializes both in Asian American literature and Western classical languages. Next week we will have her on our show again to discuss the contributions of Asian Americans to American literature. Today, however, we'll be talking about her own background. Dr. Chew, what sort of environment did you grow up in?

W : I grew up speaking English, although both of my parents know Chinese, Cantonese specifically. I am third-generation Chinese American on both sides. My grandparents

10 on both sides came to the U.S.A. in the early 1900s. My father's side of the family is more "Chinese." My ninety-four-year-old grandmother only speaks Cantonese, which I do not know though I learned Mandarin in college. I have never had a conversation with her — we communicate in other ways. My father is very proud of being Chinese and actively tries to keep family traditions alive.

15 M : What about your mother's side of the family?

W : My mother is much more Americanized. Her father went to the University of California at Berkeley and became a civil engineer; he used to inspect bridges — including the Golden Gate Bridge in San Francisco. My father's father owned a grocery store in Oakland Chinatown. It is still there, though our family no longer runs it.

20 M : How were you brought up?

W : I was raised to be "proud to be Chinese." My father would mention the horrible experience of Japanese Americans in the internment camps during World War II and say that this could happen to us Chinese, you never know, that's why we have to remember who we are. Like many American children, I "rebelled" when I was in  
25 high school and college. While I did study Mandarin and Chinese history, I chose to major in Classics, in Latin and classical Greek — the ancient languages at the root of much of Western literature.

M : Did you read a lot as a child?

W : I was always reading — mostly stories, then novels and poetry. Even now when I  
30 read, if I am reading a wonderfully gripping novel, I don't notice when I turn the pages.

M : What writers had an impact on you in your early years?

W : My older sister and I read and read the *Little House on the Prairie* books by Laura Ingalls Wilder over and over, passing them back and forth. It is fascinating to me  
35 that St. Paul, Minnesota, where I am currently living, is not far from her birthplace in

Pepin, Wisconsin. I fell in love with Emily Dickinson's and John Keats' poetry when I was around fourteen years old.

M : What was your parents' attitude toward education?

W : My parents didn't have an "attitude" towards education — it was just something you  
40 had to have! They never had any doubts that we would do well, get good grades, go to college. While we always knew their support and faith were unconditional, I think we also felt a lot of silent pressure to do well always.

M : Did they support your pursuit of your interests?

W : Yes — although some interests that exceeded their basic expectations took a while  
45 for them to get used to. I became a cross-country runner in high school; my dad first had nothing to say about this new pursuit — and then he took up running himself and did a marathon when he turned fifty.

M : How did they feel about you moving to the East Coast?

W : My mom and dad were pretty shocked when they realized I really did mean to go all  
50 the way across the country to attend college in Princeton, New Jersey. They now always talk about how it opened their horizons and got them to travel outside the familiar environs of the San Francisco Bay Area.

M : There seems to be a stereotype about Asian families stressing educational achievement. Do you think it is fair to make a generalization about that?

55 W : As much as I dislike stereotypes, I think it is all right to make a generalization. Every one of my friends who are Asian American would attest to such a feeling in their own families. Even if one's own family does not stress education, Asian American children come to perceive that American culture expects them to succeed in education. This has been particularly difficult for one of the newest Asian groups  
60 in this country, the Hmong from Laos. Many of them have settled here in Minnesota and they are not following the "usual" pathway to "Asian American success." Many

of them marry while still teenagers and their college entrance rate is not very high, I have learned.

M : Well, thank you very much, Dr. Chew. Unfortunately, we have run out of time, but

65 we very much look forward to talking with you again next week. [826 words]

全訳

M : アジア系アメリカ人の文化の側面を探る一連のインタビューの部分として、本日は光栄にもセント・トーマス大学のクリスティーナ・チュー博士にゲストとしてお越しいただいています。チュー博士は、アジア・アメリカ文学と西洋古典言語の両方を専門にされています。来週、この番組に再びおいいただき、アジア系アメリカ人のアメリカ文学への貢献について話し合う予定です。ですが、今日は、チュー博士ご自身の生い立ちについてお話を伺いたいと思います。チュー博士、どのような環境で育ちになったのでしょうか。

W : 私は英語を話して育ったんですが、私の両親は中国語、具体的に言うと、広東語がわかります。私は父方からも母方からも中国系の3世なんです。両方の祖父母とも1900年代初頭にアメリカにやってきました。父方の方がより「中国的」ですね。94歳になる祖母は広東語しか話さなくて、私は大学で標準中国語を習いましたが、広東語はわかりません。彼女と会話したことは一度もないんです。他の方法でコミュニケーションをとるんです。私の父は、中国人であることをとても誇りに思っていて、一族の伝統を絶やさないよう積極的に活動しています。

M : お母様方についてはいかがですか。

W : 母はずっとアメリカ的です。母の父はカリフォルニア大学バークレー校に進学し、土木技師になりました。橋の検査をしていたんです。サンフランシスコのゴールデン・ゲート・ブリッジもです。父方の祖父はオークランドのチャイナタウンで食料雑貨店を所有していて、今もその店はあります。うちの家族はもう経営していませんが。

M : どのように育てられたのですか。

W : 「中国人であることに誇りを持つ」ように育てられました。父はよく、第2次世界大戦時に捕虜収容所で日系アメリカ人が受けた恐ろしい仕打ちのことを話し、こういうことは、ひょっとしたら、我々中国人にも起こり得るんだ、だから、自分らが何者なのかということを忘れてはだめだ、と言っていました。多くのアメリカの子供と同じように、私も高校や大学の頃には「反抗」しました。標準中国語や中国史を学ぶ一方で、古典語、すなわちラテン語と古典ギリシャ語を専攻することにしました。多くの西洋文学の根底にある古代言語です。

M : 子供の頃は読書をたくさんされたのですか。

W : いつも本を読んでいました。ほとんどが短編集で、あとは小説や詩などです。今でも本を読んでいて、素晴らしく心をひかれる小説だと、いつページをめくったのか気づかないんです。

M : 若い頃に読まれたものでは、どのような作家が印象に残っていますか。

W：姉と私はローラ・インガルス・ワイルダーの『大草原の小さな家』シリーズを代わりばんこに何度も何度も繰り返し読みました。ミネソタ州のセントポールは現在私が住んでいる所ですが、ウィスコンシン州のペビンにある彼女の生誕地からそう離れていないということは、私には興味深いことなのです。14歳の頃には、エミリー・ディキンソンやジョン・キーツの詩にのめり込みました。

M：ご両親の、教育に対する考え方はいかがでしたか。

W：私の両親は教育に対する「考え方」というようなものは持っていませんでした。ただ、当然身に付けなければならないものだったんです。両親は、私たちが学校でよい成績をとり、大学に行くということについて何の疑いも持っていませんでした。両親は絶対に私たちに賛成して信頼してくれるということはわかっていたのですが、それと同時に、いつもよい結果を出さなければ、という無言のプレッシャーを感じていたように思います。

M：ご両親は、あなたが関心を持っていることを追求するのに賛成してくれましたか。

W：ええ。ただ、彼らが普通に私に期待している以上のことについては、それになじむのに多少時間がかかりましたけど。私は高校時代、クロスカントリーの選手になったのですが、父は私が新しく何かを始めたことについて最初は何も言わなかったのですが、そのうち父自身が走ることを始めて、50歳になった時にマラソンに出場したのです。

M：あなたが東海岸に移ることについて、ご両親はどうお感じになったのですか。

W：両親は、私が本当にはるばる国を横断してニュージャージー州のプリンストンの大学に通うつもりだとわかった時には、かなりショックを受けたようです。今では、それによって自分たちの視野が広がり、慣れ親しんだサンフランシスコのベイエリア近郊の外へ出かけるようになったということをいつも話しています。

M：アジア系の家族は学校でよい成績をとることを重視するという固定観念があるようですが、これについて一般化することは正しいことだと思いますか。

W：固定観念は嫌いですが、一般化することは構わないと思います。アジア系アメリカ人の友人は誰でも、彼ら自身の家族の中にそういう感情があると言うでしょう。アジア系アメリカ人の子供たちは、たとえ自分の家族が教育に重きを置かないとしても、アメリカの文化は自分たちが教育においてよい成果を出すことを期待していることに気づくようになるのです。このことは、アメリカに最も最近やってきたアジア人グループの1つ、ラオスのモン族にとっては特に難しい問題になっています。彼らの多くはこのミネソタ州に落ち着いて、「アジア系アメリカ人の成功」への「通例の」道をたどろうとしていない。10代で結婚する人が多く、大学進学率もあまり高くはないと聞いています。

M：そうですか、どうもありがとうございました、チュー博士。残念ながらお時間になってしまいましたが、来週またお話しできるのをとても楽しみにしております。

## 注

- ℓ. 1 ◇ as part of a series of ～「一連の～の部分として」
- ℓ. 2 ◇ we are happy to have as ～…「…を～としてお迎えしてうれしく思う」
- ℓ. 3 ◇ specialize in ～「～を専門にする；～を専攻する」 cf. major in ～
- ℓ. 5 ◇ contributions of ～ to …「～の…に対する貢献」
- ℓ. 6 ◇ background 「生い立ち」

- ℓ. 9 ◇ specifically 「もっと正確に言えば」
- ℓ. 12 ◇ Mandarin 「北京官話〔標準中国語〕」
- ℓ. 14 ◇ keep ~ alive 「～（習慣・伝統など）を存続させておく」
- ℓ. 17 ◇ civil engineer 「土木技師」
- ℓ. 18 ◇ grocery store 「食料雑貨店」
- ℓ. 19 ◇ run ~ 「～を経営する」
- ℓ. 20 ◇ be brought up = be raised 「育てられる」
- ℓ. 21 ◇ horrible 「恐ろしい」
- ℓ. 22 ◇ internment camp 「捕虜収容所」
- ℓ. 23 ◇ you never know 「（挿入句的に） なるかわからない」
- ℓ. 24 ◇ remember who we are 「自分が誰〔何者〕であるか」  
◇ rebel 「反抗する」
- ℓ. 26 ◇ at the root of ~ 「～の根底に（ある）」
- ℓ. 30 ◇ gripping 「心を強くとらえる」
- ℓ. 32 ◇ have an impact on ~ 「～に影響を与える」
- ℓ. 34 ◇ it is fascinating that … 「…ということは非常に面白い」
- ℓ. 35 ◇ currently 「現在」
- ℓ. 36 ◇ fall in love with ~ 「～に夢中になる」
- ℓ. 39 ◇ it was just something you had to have 「それ（＝教育）は当然身に付けておくべきものであった」
- ℓ. 40 ◇ they never had any doubts that … 「…ということを疑うことはまったくなかった  
→ 当然…だと思っていた」  
◇ do well (at school) 「（学校で）よい成績をとる」
- ℓ. 41 ◇ we always knew their support and faith were unconditional 「彼ら（＝両親）の支持と信頼は無条件だといつも知っていた → 彼らはいつも必ず自分たちを支持し信頼してくれると思っていた」
- ℓ. 43 ◇ pursuit of *one's* interests 「自分の興味のあることを追い求める」
- ℓ. 44 ◇ (some interests) that exceeded their basic expectations 「彼ら（両親）の基本的な期待を超えるような（関心事）」  
◇ ~ take a while for … to get used to 「…が～に慣れるのにしばらく時間がかかる」
- ℓ. 46 ◇ have nothing to say about ~ 「～については何も言わない」  
◇ take up ~ 「～を始める」
- ℓ. 49 ◇ I really did mean to … 「本当に…するつもりである」  
◇ go all the way (across the country) to … 「（国を横断して）はるばると…しに行く」
- ℓ. 50 ◇ they now always talk about how … 「（以前とは違って）今では彼ら（＝両親）は…ということを話す」
- ℓ. 51 ◇ open *one's* horizons 「視野を広げる」  
◇ get ~ to … 「～に…させる」
- ℓ. 52 ◇ environs 「周辺」



- ℓ. 53 ◇ stereotype 「固定観念」  
 ◇ stress ～ 「～に重きを置く」  
 ◇ educational achievement 「学業成績（よい成績を取り，よい学校に進学すること）」
- ℓ. 54 ◇ make a generalization about ～ 「～を一般化する」
- ℓ. 55 ◇ as much as … 「…だけれども」  
 cf. (As) *much as* he wanted it, he couldn't bring himself to ask for it.  
 （彼はそれが欲しかったが，欲しいと言い出せなかった。）
- ℓ. 56 ◇ every one of ～ would … 「～の誰もが…するであろう〔仮定法〕」  
 ◇ attest to ～ 「～を証言する」
- ℓ. 58 ◇ come to … 「…するようになる」  
 ◇ perceive that … 「…であることがわかる」
- ℓ. 61 ◇ follow the “usual” pathway to ～ 「～への『普通の』通り道をたどる」
- ℓ. 64 ◇ we have run out of ～ 「～がなくなってしまった」

## 【7】

### 解答

- (1) **c**      (2) **b**      (3) **e**      (4) **c**      (5) **d**  
 (6) **b**      (7) **d**      (8) **a**      (9) **c**      (10) **a**

### 解説

- (1) ℓ. 1～2 で Mick had arrived at the hotel less than a week ago to work as second chef. Carol had met him in the staff sitting-room. と言っているので，キャロルがホテルの従業員であることがわかる。よって，**c** が正解。
- (2) ℓ. 7～8 でミックが I didn't know the place was littered with attractive blondes. と言ったのに対して，キャロルは Neither did I. I haven't seen them. と答えている。さらに，ℓ. 28～29 に It wasn't that she was the only girl working at the Riverdown Hotel. とある。これらのことから判断すると，正解は **b**。
- (3) ℓ. 1 に Mick had arrived at the hotel less than a week ago to work as second chef. とある。さらに，ℓ. 14 で “I'm second chef.” と言っているので，**e** の料理人を選ぶべき。
- (4) ℓ. 1～2 の Mick had arrived at the hotel less than a week ago to work as second chef. Carol had met him in the staff sitting-room. と，ℓ. 6～8 の 2 人のやりとり，“Do you work here?” “Certainly.” から，2 人は同じホテルで働いていることがわかる。したがって，正解は **c**。
- (5) ℓ. 1 の Mick had arrived at the hotel less than a week ago as second chef. に書かれている。「ホテルにやって来たのが less than a week ago」であるから，**d** を選ぶべき。
- (6) ℓ. 36～37 の She was due to finish at one o'clock とほぼ同義の表現が，ℓ. 50 の I'm finishing at one o'clock である。さらに，ℓ. 55～56 で It's my half day, so I knock off at one o'clock, that's all. とキャロルが言っているため，**b** が正解。
- (7) ℓ. 25～26 に Mick の外見上の特徴が描かれている。Quite tall, strongly built, and

with plenty of hair that was almost jet black. And the thickest eyebrows she'd ever seen. 「かなりの長身で、ガッチリとした体格で、ほとんど真っ黒で光沢のある髪がふさふさしていた。それに、彼女が見たこともないほど、眉毛が太かった。」より、**d**が正解。

- (8) ㉔. 25～26 に with plenty of hair that was almost jet black とあるので、**a**が正解。  
(9) ミックはキャロルのことを、attractive blondes (㉔. 7～8) と考えている。**c**の金髪が正解。  
(10) ㉔. 38 に Valerie の同格表現として the relief receptionist とある。relief receptionist とは、「交代の受付係」のこと。したがって、正解は **a**。

**全訳**

ミックが副コック長としてホテルにやって来てから、まだ1週間も経っていなかった。キャロルが彼に会ったのは、従業員用の休憩室であった。真昼間で、彼女は、この時間帯なら部屋には誰もいないだろうと思った。彼はテレビでレース中継を観ていたが、彼女が部屋に入ってくると、さっと立ち上がった。

「やあ」嬉しそうに満面の笑みをたたえて、彼は言った。「ここで働いているの？」

「もちろんよ。」彼女は答えた。「そうでなければ、この部屋に入っこないでしょ。」

「なるほど、そいつはすばらしい。」彼は言葉を続けた。「この場所がかわいいブロンドの女性たちで溢れかえっているなんて、思いもしなかったよ。」

彼の態度を見ていると、彼女はおかしくなった。彼の言おうとしていることはわかったが、それを認めるつもりはなかった。「私だって、思いもしなかったわ。」彼に言った。「そんな人たちを見たことないもの。」

「じゃあ、君はあそこの鏡で自分の姿を見る必要があるね。」彼は、彼女を見てにっこりした。「今ここに来てよかったよ。」

「仕事は何をしているの？」

「副コック長だよ。」彼は言った。彼が言うと、その仕事はこの上なくささいなものに聞こえた。

キャロルは、それを聞いて驚いた。ホテルの厨房に、複数のシェフがいるなんて知らなかった。とにかく、男性が料理をするというのは、彼女にはいまだに少し奇妙に思われた。それにもかかわらず、彼女の父親は料理がとても上手だった。この前母が病気で寝込んでいる時、キャロルはまだ学生だったので、ほとんど父が料理をしてくれたのだ。

彼女はミックに他のホテルで働いたことがあるのか聞いたが、ミックが彼女に自分の名前を教え、彼女の名前を聞き出すのに時間はかからなかった。ホテル業界では勤務先をかなり頻繁に変える人が多いことを、彼女はすでにわかっていた。

「ああ、あるよ。」彼は言った。「仕事の経験はかなりある。副コック長は、人手が足りていないのさ。いつも求人広告が出ている。だから、ちょっとした変化が欲しくなっても、何の問題もないんだ。」

ミックはとても魅力的だわ、そう彼女は思った。かなりの長身で、ガッチリとした体格で、ほとんど真っ黒で光沢のある髪がふさふさしていた。それに、彼女が見たこともないほど、眉毛が太かった。

従業員用の休憩室で初めて会って以来、彼女はしょっちゅうミックと顔を合わせた。実際、彼ができる限り頻繁に自分にばったり出くわそうとしているように彼女には思われた。リバーダウン・ホテルで働く女性が、彼女1人だけであるというわけではない。ウェイトレスや客室係のメイドが数人いるだけでなく、ほぼ毎晩のように、カクテルバーで飲み物を出す、とてもきれいな女の子も1人いる。しかしながら、ミックは彼女たちの誰にも興味がないのだろう、とキャロルは推測した。

それからというものミックは、ほとんど毎朝、彼女が帳簿をつけていると、彼女の分のコーヒーを持って来て、おしゃべりする機会を持とうとした。いや、キャロルが思っていた通り、口説こうとしていたのである。今のところ、率直に「あからさまに」デートに誘うことはしなかったが、そのための下準備をしているのだ、と彼女は直感した。

しかし、ある朝、彼女が誰にも邪魔されなくて済むだろうと思っていた時のことであった。だが実際には、ロリモア氏がやって来て、すでに彼女の時間を十分に浪費していたのである。彼女は、1時には仕事を終えることになっていて、交代の受付係であるバレリーに引継ぎをするまでに、処理しておかなければならないことが山ほどあった。

「で、何か面白いことはあった？」ミックはカウンターにもたれ掛かって、興味深そうに言った。

キャロルはコーヒーをがぶ飲みしたので、あやうく口の中を火傷しそうになった。できるだけ早くコーヒーを飲み終えたかった。仕事を再開するためである。

「いいえ、まったくいつも通りよ。」彼女は答えた。もちろん、真実ではなかった。ロリモア氏との間に起きた出来事を、彼に話せば楽しいだろう。しかし、あえてここでその話を始めようとは思わなかった。あまりにも時間を食ってしまうだろうからである。

「それじゃあ、新しいお客は？」今度はこう聞いた。彼はいつも、ホテルに滞在している人物や新しい客の到着予定時刻の詳細を知りたがった。それはこの場において、自分と話をするための口実にすぎない、と彼女は推測した。

彼女は急いで最後の一口を飲み干すと、言った。「ねえ、ミック、ごめんね。失礼なことは言いたくないんだけど、本当に今朝はおしゃべりに割く時間がないのよ。1時には仕事を終える予定なんだけど、やらなきゃいけないことがまだ山のようにあるの。」

「仕事を終えるだって！」彼はびっくりした表情をした。「まさか、その、ここを辞めるってことじゃないよね？」

彼の驚きぶりを見て、笑いをこらえきれなかった。彼が実際自分に好意を持っていることに、ほとんど疑いの余地はなかった。「いいえ、もちろん、ここを辞めはしないわ。」彼女は彼を安心させた。「今朝、ということよ。半休だから、1時に仕事を切り上げる、それだけ。だからぐずぐずしている暇はないの。」

「今日の午後休みだなんて、一言も僕に言わなかったじゃないか。」その考えに、彼はかなり落胆しているようだった。「今夜、君をデートに誘おうと思っていたんだ。ディナーの時間が始まったらすぐに、仕事を切り上げるよ。」

「えっ」彼女は彼を見上げ、そして微笑んだ。「そうね、午後の予定は、必要な買い物をしてから、お城まで散歩するだけよ。まだ見たことはないんだけど、みんながいいって勧めるから。本当に歴史を感じさせる、興味深い場所みたい。」

- ℓ. 2 ◇ sitting-room = a room in a residence used for the common social activities of the occupants 「居間、茶の間」  
 ○今回はホテルが舞台なので、「休憩室」と訳出した。
- ℓ. 4 ◇ leap to *one's* feet 「さっと立ち上がる；跳び上がる」  
 ○ leap = jump vigorously
- ℓ. 5 ◇ his face lighting up into a huge smile, "do you work here?"  
 ○分詞構文。his face が意味上の主語。  
 ○ his face lighting up = his face showing pleasure, excitement etc.  
 ○ huge = to a very great degree  
*cf.* His new novel will undoubtedly be a *huge* success.  
 (彼の新しい小説は、間違いなく大ヒットするだろう。)  
 ○ do you work here? 「ここで働いているの？」  
 ○ここでの現在時制は、日常的行為・習慣的行為を表している。  
*cf.* Who *do you work for*? (どこにお勤めですか?)
- ℓ. 6 ◇ otherwise I wouldn't be coming in here.  
 ○ここでの otherwise は、if I *didn't* work here の意味。
- ℓ. 7 ◇ I didn't know the place was littered with attractive blondes.  
 ○ litter = make a place untidy with scattered rubbish 「～を散らかす」  
*cf.* The streets were *littered* with smashed vehicles and glass.  
 (通りには、壊れた乗り物とガラスが散乱していた。)
- ℓ. 10 ◇ Neither did I  
 ○ℓ. 7 の I didn't know the place was littered with attractive blondes を受けている。  
 = I did not know the place was littered with attractive blondes, either.
- ℓ. 14 ◇ He made the job sound as unimportant as possible.  
 ○ the job = second chef  
 ○ unimportant = not important, and not worth considering
- ℓ. 15 ◇ raise *one's* eyebrows = move *one's* eyebrows up in order to show surprise or disapproval
- ℓ. 16 ◇ It still struck her as a bit odd, anyway, that a man should do the cooking  
 ○ strike (somebody) as something = give somebody a particular impression  
*cf.* His argument *struck* me as completely ridiculous.  
 (彼の主張は、私にまったくばかげた印象を与えた。)  
 ○ anyway = used when changing the subject of a conversation, ending the conversation, or returning to a subject  
 ○ do the cooking 「料理をする」
- ℓ. 18 ◇ when Carol was still at school = when Carol was still a student
- ℓ. 19 ◇ find out = get some information about something or somebody by asking, reading, etc.

- ◇ if = whether
- ℓ. 20 ◇ in the hotel trade 「ホテル業界」
- the trade = a particular area of business and the people or companies that are connected with it
- ℓ. 22 ◇ in short supply = scarce
- ℓ. 23 ◇ They're always advertising for them
- = Hotels are always advertising for second chefs
- ℓ. 25 ◇ decide = form the opinion that something is true after considering the facts
- ℓ. 26 ◇ jet black = deep shiny black in color
- ℓ. 27 ◇ fairly frequently = quite frequently
- ◇ it seemed to her that he made a point of bumping into her as often as possible
  - make a point of doing something = be or make sure you do something because it is important or necessary
  - bump into = meet someone you know unexpectedly
- ℓ. 28 ◇ It wasn't that she was the only girl working at the Riverdown Hotel
- that = because
  - work at → 勤務先に焦点を当てた表現。  
cf. work for → 雇用関係に焦点を当てた表現。
  - working at the Riverdown Hotel : the only girl を修飾する形容詞句。
- ℓ. 30 ◇ chamber maid = a woman who cleans and tidies the bedrooms in a hotel
- ◇ serve = work
  - ◇ She'd gathered, though, that Mick was interested in none of them
  - gather = (not used in the progressive forms) believe or understand that something is true because of information or evidence you have
  - though = however
  - them = several waitresses and chamber maids and a very pretty girl who served in the cocktail bar most evenings
- ℓ. 32 ◇ while she was working on the accounts
- while = as
  - work on = study or search a particular subject or question 「(課題・問題などに) 取り組む」  
cf. "Would you like another cup of tea?" "No, thanks. I'm still *working on* this one."  
(「紅茶をもう一杯いかがですか。」「いいえ結構です。まだ残っていますから。)」
  - account = an arrangement with a shop, etc that allows you to pay for goods or services at a later date 「勘定；計算書」
- ℓ. 33 ◇ took the opportunity to stay for a chat
- take the opportunity to do = make use of a chance that you have to do something
  - chat = a friendly informal conversation
  - ◇ chat somebody up = talk to somebody in a friendly way because you are sexually

attracted to him or her

ℓ. 34 ◇ outright = openly; without hiding anything

◇ she sensed that he was building up to that

○ sense = become aware of something or realize it, although it is not very obvious

○ build up to = try to prepare people for something *one* wants to do or say by starting to do it or introducing the subject gradually

ℓ. 35 ◇ This was one morning, though, when she could have done without an interruption from anybody.

○ここでの This は、後述の内容を指している。

○ when : 関係副詞。先行詞は one morning。

○ (If Mr. Lorrimore hadn't come in,) she could have done without an interpretation from anybody : 仮定法過去完了。

○ do without = dispense with

○ interruption = thing that interrupt

ℓ. 36 ◇ as it was < as it is

① [文頭または文中に置いて] 「(仮想的な表現を受けて) だが実際は」

② [通例, 文尾に用いて] 「あるがままに, 現実のままだ」 = as it stands

○ここでは、前文の she could have done without an interruption from anybody が仮想的な表現（仮定法過去完了）になっているため、上記①と解釈すべきである。

◇ She was due to finish at one o'clock

○ be due to ... = be arranged or expected to ...

ℓ. 37 ◇ there were plenty of things to see to before she handed over to Valerie, the relief receptionist

○ see to = deal with

○ hand over to somebody = give something or somebody officially or formally to another person

○ relief = (often used as an adjective) a person or group of people that replaces another when they have finished working for the day or when they are sick

○ receptionist = a person whose job is to deal with people arriving at or telephoning a hotel, an office building, a doctor's surgery, etc.

ℓ. 41 ◇ gulp (at) = swallow large amount of food or drink quickly 「ゴクゴク飲み込む」

ℓ. 42 ◇ so that she could resume her work

= in order to resume her work

○ resume = begin something or continue something after interruption

ℓ. 43 ◇ nothing out of the ordinary

○ nothing extraordinary とほぼ同義。

ℓ. 44 ◇ she daren't risk beginning on that now

○ dare = do not have enough courage to do something, or do not want to do it because *one* fears the consequences



- risk = do something that may mean that you get into a situation which is unpleasant for you
- begin on = undertake something
- that = telling him about the incident with Mr. Lorrimore
- ℓ. 47 ◇ She guessed it was just an excuse to stay and talk to her.
  - guess = give an answer or opinion about something without being sure of all the facts
  - excuse = a reason (that may be true or untrue) that you give in order to explain your behavior
- ℓ. 49 ◇ She hastily swallowed the last of the coffee.
  - hastily = in haste
  - swallow = make food, drink, etc. go down your throat into your stomach
  - ◇ Look = used when you want someone to pay attention to you because you are going to say something important
- ℓ. 50 ◇ I really haven't the time to spare to chat this morning
  - I really haven't = I really do not have
  - to spare to chat this morning は, the time を修飾する形容詞句。
  - to chat this morning は, 副詞用法の to 不定詞。
- ℓ. 52 ◇ horrified = feel shocked or disgusted, usually because of something that *one* has seen or heard
- ℓ. 54 ◇ She couldn't help laughing at his alarm.
  - help = avoid
  - cf. I cannot *help* wondering about Mr. Kent.  
(ケントさんはどうなったのであろうかと思わずにはいられない。)  
= I cannot help but wonder about Mr. Kent. [I cannot but wonder about Mr. Kent.]
- ℓ. 55 ◇ of course not = of course I don't mean I'm leaving here
  - ℓ. 52 の "You don't mean — I mean — you're not *leaving* here, are you?" を受けた発言。
  - ◇ reassure = say or do something that makes somebody less frightened or worried
- ℓ. 56 ◇ knock off = stop doing something, especially work
- ℓ. 57 ◇ off = away from work or duty
- ℓ. 60 ◇ a stroll up to the Castle
  - stroll = a slow relaxed walk
  - up to = as far as
- ℓ. 61 ◇ mention = say something about it, usually briefly

## 添削課題

### 解答例

I plan to major in law because I want to become a lawyer. It is very difficult to pass the bar exam in Japan and the number of lawyers here is rather low compared to other developed nations. However, I think lawyers have an important role in protecting people's rights and maintaining a just society, so I am determined to become a lawyer no matter how hard it is. [69 words]

### 別解

I want to major in biology because I think that breakthroughs in that field will be among the most important in our time. I think that advances in biology have the potential to improve the health and well-being of people throughout the world, but also may pose some dangers. I would like to make contributions that advance the former while avoiding the latter. [63 words]

### 解説

- This composition topic is not complicated. The main idea sentence should be simply a statement that you plan to major in a certain subject. The supporting sentences should tell your reasons. It is good to explain why the subject is an important one or what you attend to accomplish in the field. Simply saying something like "I'm interested in history" is not very informative and not very interesting either.
- If you have clearly stated your intention and clearly stated your reasons (introducing them with expressions such as *because* and *moreover*), there is no reason to add something like "That is why I want to major in biology." It doesn't add anything to your composition.